



かわらばん! プログラム 9



市商工会女性部が取り組んだ 「買い物支援活動」の報告会

3月4日(月) 13時30分~15時 能美市
ふるさと交流センターさらい において、
市商工会女性部会員30人と、市民の方
62人 計92人が参加しました。

月	火	水	木	金	土	日
				3/1	3/2	3/3
3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	3/9	3/10

内容

能美市でも流通機能や交通網の弱体化に伴い、食料品や日用雑貨などの買い物が困難な状況に置かれている「買い物弱者」が多く存在し、地域の課題になっています。その課題に対して、市商工会女性部が、昨年度から「地域振興の発展と地域貢献」をテーマに、何か支援ができないかと模索し、研修を重ね、モデル地区への移動販売を2回試行した結果を報告しました。

モデル地区(鍋谷町)への移動販売の様子を、地域でのやりとりそのままに、愉快的な寸劇で紹介した後、それを受けて、参加者がグループごとに意見を交換し合いました。

県・市議会議員の方々や行政関係者も多く参加され、地域の大きな問題であり、地域づくりにもつながる大切な活動であることへの関心の高さが伺われました。

まとめ

- ◆継続が大切・・・仕入先も女性部会員の店だということで、現在は赤字覚悟だが、今後はある程度の利益も必要。当初は損しても信頼を得る。顔を覚えて頂き、望みに応えることで後から利益がついてくる。地域貢献の気持ちが基本にあることを忘れない。
- ◆人が必要・・・立ち上げて、後継者を育てることが問題。携わる人が変わると引継ぎが必要。
- ◆資金が必要・・・行政との連携が必要。企業の協賛も考える。必要性を訴え、理解者を増やす。
- ◆販売方法・・・移動販売の良い所は、見て手でさわり選べる。高齢者は見て選びたい。など

参加者の感想

- ・地域のいきいきサロンなどを利用すると、運営側も購入側にとっても便利なのではないか。
- ・協力できるところがあれば協力したい。
- ・寸劇が素晴らしかった。女性特有の良さとして、話しやすい。話を聴く、話をする事自体が大切なことで、利益優先ではないとわかった。
- ・今後はマネジメントも必要になってくる。
- ・行政・社協・企業(協賛金)・利用者、みんなで担いでいく覚悟がある。



「地域の買い物に困っている人の役に立ちたい」との熱意溢れる活動紹介と、様々な立場からの幅広い視点による話し合いが展開されました。

